

平成25年度 農作物病虫害  
防除対策情報 第5号

平成25年7月26日 秋田県病虫害防除所

## トマト灰色かび病の発生が多い

～発生を確認したほ場では治療効果のある薬剤を散布してください～

### 1. 現在までの発生状況と今後の発生予想

- 1) 7月16～17日に実施した巡回調査（施設トマト）における灰色かび病の発病株率は41.2%（平年18.6%）、発病度は11.8（平年5.5）でいずれも高かった（表－1）。
- 2) 7月19日に仙台管区气象台から発表された東北地方1か月予報によると、向こう1か月の気温は平年並又は低い、降水量は平年並又は多いと予報されている。また、特に注意を要する事項として、期間の前半は降水量が多く日照時間の少ない状態が続くと予報されている。
- 3) 以上のことから、今後も灰色かび病に好適な環境が続くと予想され、果実発病の増加が懸念される（図－1）。このため、本病の防除対策を徹底して行う必要がある。

### 2. 防除対策

- 1) 多湿時に発生しやすいので、ハウス内の換気に努め、摘葉によって通気を良くする。
- 2) 本病は葉先枯れからの発生が多い（図－2）。肥培管理を適切に行い、葉先枯れが発生した葉は早めに摘葉する。
- 3) 果実や茎葉などの発病部位は早めに除去し、ほ場外で処分する。
- 4) 発病を確認したほ場では治療効果のある薬剤を選択し防除を行う（表－2）。ただし、ベンズイミダゾール系殺菌剤、ジカルボキシイミド系殺菌剤は耐性菌出現回避のため連用を避ける。

#### 【 問 合 せ 先 】

秋田県病虫害防除所	TEL 018-860-3421
秋田県農業試験場	TEL 018-881-3327
掲載HP	<a href="http://www.pref.akita.lg.jp/bojo/">http://www.pref.akita.lg.jp/bojo/</a>

**参考資料**

表－1 巡回調査における灰色かび病の発生状況(7月16～17日)

	県北部		県南部		全県	
	発病株率(%)	発病度	発病株率(%)	発病度	発病株率(%)	発病度
2013	63.2	22.0	34.4	8.6	41.2	11.8
平年	32.9	8.5	17.4	4.5	18.6	5.5
概評	多	多	多	多	多	多

1地点当たり25株を任意に選び、株ごとに茎葉部の発病状況を調査した。

発病度 =  $(4A + 3B + 2C + D) / (4 \times 25) \times 100$

A: ほとんどの葉が枯死し、ときには茎部も枯死する。 B: ほとんどの葉が発病し、ときには一部の葉が枯死する。

C: 4分の1程度の葉に発病し、かなりの大型病斑が見られる。 D: ごく一部の葉に微発病斑が見られる。



図－1 果実での発病



図－2 葉先枯れからの発病

表－2 灰色かび病に対して治療効果のある主な薬剤

薬剤名	系統名	希釈倍数	散布量(10a)
カリグリーン	炭酸水素塩	800倍	
ゲッター水和剤	N-フェニルカーバメート, ベンズイミダゾール	1,000～1,500倍	150
ジャストミート顆粒水和剤	ヒドロキシアニリド, フェニルピロール	2,000倍	}
スミブレンド水和剤	N-フェニルカーバメート, ジカルボキシイミド	2,000倍	
ベルコート水和剤	グアニジン	3,000～6,000倍	300L
ベルコートフロアブル	グアニジン	2,000倍	

※1 ベンズイミダゾール系殺菌剤、ジカルボキシイミド系殺菌剤は耐性菌出現回避のため連用を避ける。

※2 薬剤を使用する際は使用時期と使用回数に十分注意する。